



▲牧Ⅱ峰からの展望

牧山:黒髪の奥深さを知る山



▲大川内町吉田地区から望む牧山と別山(右)



▲黒髪連山で最難所の牧山北尾根ルート

山名 RQNo. 2 牧山
RQNo. 3 青牧山(牧Ⅱ峰)

ルート No.2-1 大川内山から牧山周遊

登山口 RQNo. 10 越ノ峠
RQNo. 40 大川内山キャンプ場入口

最寄駅 西肥バス停「正力坊」
登山口まで3kmの林道歩き、
下山口から1kmの車道歩きが必要

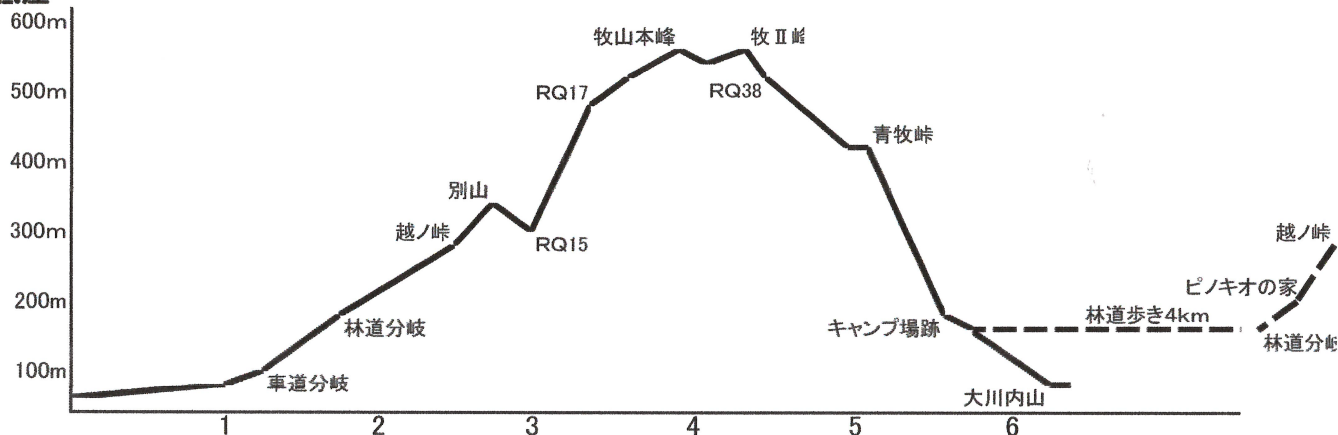
駐車場 越ノ峠
30台可能／公衆便所あり
大川内山キャンプ場入口
林道ふくらみに5台、近くに10台可能

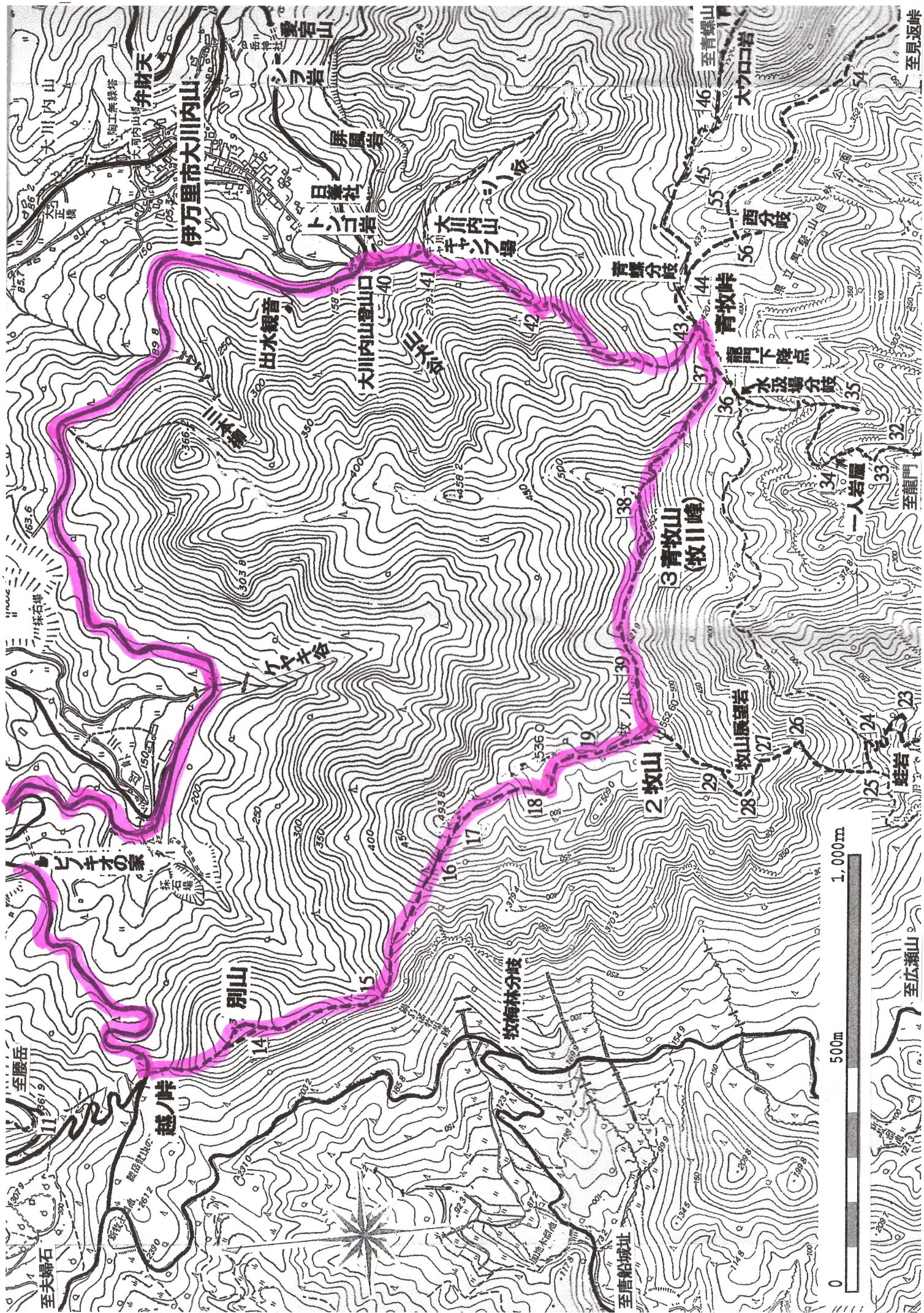
(注) RQの意味
レスキューポイントの意味です。
本来なら、RESCUEですから、短縮造語は「RC」とすべきですが、
ここでは「RQ」として表記しています。

コースタイム

正力坊バス停	15分	林道分岐(近道)	10分	林道4差路(変形)	15分	越ノ峠 牧山登山口	20分	別山鞍部 RQ15番
別山鞍部	40分	北尾根の肩 RQ17番	20分	牧山本峰 RQ2番	20分	牧Ⅱ峰 RQ3番	30分	青牧峠 RQ43番
青牧峠 RQ43番	15分	小滝 RQ42番	15分	キャンプ場跡	5分	林道登山口	10分	大川内山 バス停

高低差







▲吉田地区から望む腰岳と別山(左)、目指す牧山はその左に鎮座する。



▲越ノ峠へ向かう変形交差点。目指す越ノ峠は左上に登って行く

公共交通機関を利用する場合

JR伊万里駅またはMR伊万里駅前から大川内山行の乗合バスで、大川内山バス停の2つ手前の正力坊バス停で下車し、西(正面)にダーンと居座る感じの腰岳(最右)を目指す。水田地帯で数軒の民家が散在する車道を歩く。600mを過ぎた辺りから右手に山が迫ってきて、1km過ぎで車道は大きく湾曲し、次第に傾斜も増してくる。湾曲から300mの分岐を右にとり、5回目の湾曲で、変形4差路に着く。登山口の越ノ峠へは、西方向(左へ巻くように)へ上る車道に取りつく。北(右)へは腰岳を巻く林道で、東(左)へは、下山口の大川内山キャンプ場へ行く。車道を150mも上ると、体験型林業施設ピノキオの家を左手に見て通過し、さらに500m上ると越ノ峠につく。

マイカー利用の場合

カーナビ設定:ピノキオの家(☎0955-22-2822)

県道28号(伊万里山内線)の大川内山入口交差点から西へ進み、正力坊で上記の市道をたどる。もしくは、大川内山市街地を抜けて腰岳林道まで上がり、大川内山キャンプ場入口から西へ3km進み、変形交差点から越ノ峠/ピノキオの家方面へ上る。今登山ルートでは、下山したキャンプ場入口からマイカーまで4kmの林道歩き、それも登り道であるため、キャンプ場入口に車を置く、即ち、逆コースを勧めたい。

登山ルート



▲越ノ峠の登山口



▲北尾根の石塁跡/高さ1m程度



▲北尾根を登り詰めRQ17番へ

越ノ峠登山口から牧山本峰へ

越ノ峠(RQ10)は生活環境保全林事業で公園化されている。牧山への登山口は、車道の峠部分にあり、南(左)へ行く舗装された園路を少し下り、左手にある道標から入山する。最初の別山へは階段道で、すぐにその傾斜はきつくなり、手すり(錆びた鎖)に助けられながら、登り詰める。階段道は、なだらかな登山道に変わり、東(左)手の木立の向こうに、別山山頂部を見上げながら進む。即ち、登山路は、別山山頂部の西側をトラバースしていることになる。RQ14番から登山道は下りとなり、登山道の右手には防塁状の石積みが始まる。石積みは、江戸期の鍋島軍馬牧場の跡で、軍馬の逃亡を防ぐ役割で築かれたもの。石積み向こうの急斜面から、軍馬の想像以上の脚力を偲ぶことができる。鞍部(RQ15)に下りて、いよいよ牧山の北尾根に取りつく。傾斜は、しばらくは緩いが、次第に急になり、左手に設置された鎖が、手すり代わりとなってサポートしてくれる。岩が張り出した所(RQ16)が中間点で、鎖がザイルに変わり直登ルートはまだ続く。鞍部から30分(ただし健脚者)で牧山北尾根の頭(RQ17)に着く。その後、傾斜は緩やかになり、樹林帯の中を進み、石柱標の所(RQ18)でルートは60度の屈曲点となる。瀬戸谷の頭(RQ19)を巻いて過ぎ、わずかな登りを経過して平坦となれば牧山山頂(RQ2)の3差路に着く。山頂は西(右)に30mだが、展望はない。山頂から西へ進み、牧山新道(RQ20番台)経由で45分も下ると龍門ダムへ着く。途中、山頂から10分の所(RQ29番)に自然岩の牧山展望台がある。越ノ峠にマイカーを置いた場合は、そこまでにして、そこから引き返すことをお勧めする。



▲展望のない牧山山頂



▲のどかな青牧峠



▲明確な峠道だが、すぐに広い沢をケルン便りに下ることになる



▲大川内山キャンプ場上部の滝みどころ

牧山から青牧峠へ

青牧峠へは、山頂近くの3差路から南(右)へ下る。

すぐに小さなピークに着き、再び木立の中の尾根を踏み跡に従い下ると、鞍部(RQ39)に着く。西側(右)は河鹿沢の源流部で、垂直に落ち下っている。

牧Ⅱ峰へは、正面の登りに取りつき、尾根の踏み跡をたどる。

2つのピークを越えて、最後の急坂を登りきると、青牧山(別名:牧Ⅱ峰)に着く。南側の木立の先から展望があり、木立ちの合間に龍門ダムと駐車場が見えている。

下山路は山頂から東(左)へ、急傾斜を下っていく。

すぐに岩尾根に出て、さらに急坂を下れば東の肩(RQ38)に出る。

ここは十分に気をつけたい所で、うっかり北の支尾根を下ってしまうと、深い森に迷い込んでしまう。

この分岐で東(右)へ、本尾根の急坂を下る。

登山道は尾根の鼻のところで北(左)へ湾曲し、木立の向こうに青螺山が見える。

湾曲して下りきると、すぐに東(右)へ折り返し、倒木の上を乗り越えて、東尾根に戻る。

即ち、湾曲の所で切れ落ちた東尾根を、西に巻いたことになる。

広くなった尾根の踏み跡をたどり下れば、再び岩鼻に出る。

下山ルートは北(左)についている。

広い東尾根を登山道の踏み跡頼りに東に下ると、龍門下降点(RQ37)に着く。

龍門ルートを南(右)に見送り、木立の中を東(まっすぐ)進む。

青牧峠の最低鞍部を過ぎて、なだらかに上ると、

大川内山への下山路のある3差路(RQ43)に出る。

青牧峠から大川内山へ下る

大川内山へは北(左)へ、南東(右)へは青螺山へのルートである。

下山路は河内谷上部を下る。広い枯れ谷で、積まれたケルンを目印にたどる。

やがて谷も明確になり、ケルンや踏み跡を頼りに、左岸側を下る。

水の流れに出て右岸へ渡り、滝の右岸をザイルに従い下り、滝の下で左岸へ渡り返す。ここがRQ42番である。

足場の悪い斜面の左岸側の踏み跡を下り、

中洲状をさらに下ると、大川内山キャンプ場跡に出る。

RQ41番で溪流を右岸へ渡り、キャンプ場施設の下を遊歩道に従い下っていく。

日峰社への道を右に見送り、下ると林道、即ち登山口(RQ40)に下り立つ。

マイカー利用者は、4kmの林道歩きが始まる。

バス停へは、林道を横断して、檜の植林地を下り抜けると、窯場街に出る。

石貼り車道を下り、4差路を左折するとバス停のある案内所に着く。

日峰社から岳神社へのルートは、青螺山ルートNo.3-2を参照されたい。



「秘窯の里」大川内山

17世紀初めから陶器を焼く窯場でありましたが、

17世紀末に、有田皿山にあった佐賀藩御用窯が、優秀な陶工たち共々移され、門外不出の献上品が焼かれる「秘窯の里」となりました。

ここで焼かれた磁器は「鍋島」と呼ばれ、鍋島宗家が幕府や公家社会にのみ流通し、一般市場に出回ることはありませんでした。

高い技術と質の高い製品が求められ、技術者も厳しい統制下で暮らしていました。

明治期となり、佐賀藩の保護はなくなりましたが、

質の高い製品技術は、窯元たちが守り続けてきました。

現代になって、窯場を取り巻く自然景観も相まって、人気の観光地となりました。

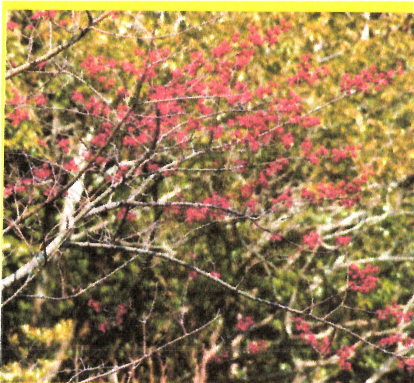
市街地西側には「藩窯公園」が整備され、連日、多くの焼き物ファンが訪れています。

**コショウノキ**

ジンチョウゲ科

黒髪山系の植物：161ページ

植生	薄暗い樹林下
樹高	30～70cmの常緑小低木
葉	長楕円形で全緑。光沢があり、柔らかい。
花	芳香があり、径は10mm程度で、白花のジンチョウゲに似る。開花期：1月
果実	径は7mm程度で赤く、有毒
和名の由来	

**タマミズキ**

モチノキ科

黒髪山系の植物：157ページ

植生	
樹高	20mを超える落葉高木
葉	薄く先が尖り、波状の浅い鋸歯で桜に似る 葉柄は紅色を帯びることがある
花	開花期：1月
果実	照葉樹林の中からひととき大きく頭をだし、紅葉と見間違ふような果実をつけた姿は見事
和名の由来	果実が美しく、樹形がミズキに似ることから

**ジカバチソウ**

ラン科

黒髪山系の植物：29ページ

植生	岩場
樹高	6～12cmの多年草
葉	2個の卵形の根生葉 黒髪連山では葉が幾分厚く、横縞のあるものもある
花	長い花茎にの先に、細く尖った紅紫色の花被片をもつ 開花期：5月
和名の由来	花冠が昆虫のジカバチに似ることから

ヤマガラ フィールドガイド「日本の野鳥」：262ページ

大きさ約14cm

繁殖 暖地の常緑広葉樹林に多いが、全国的に留鳥

特徴 頭は黒とパフ色で、背と腹は茶褐色、肩羽と翼は暗青灰色

捕食

啼き声 地鳴き：フィツ、ニーニー

さえずり：ツーツービー、ツーツービーとゆっくり繰り返して鳴く

**アオジ**

フィールドガイド「日本の野鳥」：272ページ

大きさ約16cm

繁殖 本州

特徴 頭と咽喉・頬部の回りは黒く、胸から腹を通る黒く太い縦線がある

捕食

啼き声 地鳴き：ツッチー、ツーツーチー、チッチッチュカラ、ジュクジュク

さえずり：ツービー、ツーツービー、ツツピピを繰り返して鳴く